

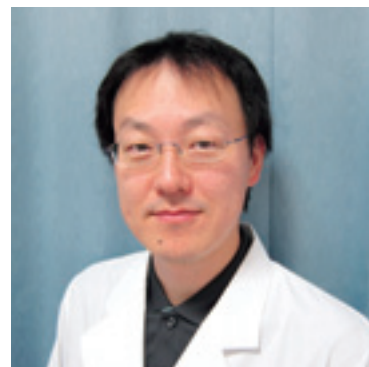
安心・納得の医療を提供します

大塚眼科 副院長の野田です。長らく福岡市の九州大学で仕事をしておりまして、昨年（2010年）23年ぶりに大分に戻って参りました。大学病院での専門は網膜硝子体疾患、特に黄斑疾患、加齢黄斑変性を担当しておりました。（…と書くと難しい感じがするかもしれませんが、眼底（眼の奥）、特に眼底の真ん中の病気を担当していた、と書いた方がわかりやすいでしょうか。）前回の本誌で大塚院長が述べておりますが、眼科分野の進歩は目を見張るものがあり、特に黄斑疾患は手術機器の進歩、眼底3次元解析装置（光干渉断層計：OCT）の普及、分子標的薬をはじめとした新しい薬剤の開発・臨床応用により多くの「治らなかった」病気が「治る」ようになりました。また疫学調査や遺伝子解析などで危険因子や病気の個人差についても謎が徐々に明らかになってきており、このような最新情報もネット環境の普及もあり当院でも比較的早く提供できる環境にあります。

しかし科学技術の進歩により進んだ医療を提供できるようになっても病気になるのは「人間」ですし、医師や医療スタッフも「人間」です。病気になったり調子が悪くなれば誰でも不安になりますし、注射や手術になれば痛みや結果への不安が必ずわき起こると思います。私たちは、病気の原因や治療法、今後の見通しについて画像診断などの客観的な検査結果を用いて「わかりやすく」説明することを第一に心がけています。病気や眼のことでご不明な点や気になることがあればどうぞお気軽にスタッフや私まで声をかけて下さい。説明を丁寧に行うことで少しでも皆様の不安が解消し、納得して治療を受けて頂ければ幸いです。

今後ともよろしくお願い申し上げます。

副院長 野田 記



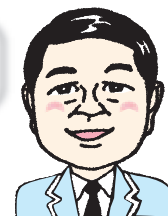
野田 佳宏

1999年 九州大学医学部 卒業
2005年 日本眼科学会認定眼科
専門医
2005年 九州大学大学院医学系
学府 修了（医学博士）
2005年 九州大学医学研究院 助手
2007年 九州大学医学研究院 助教
2010年 九州大学医学研究院
非常勤講師
2010年 大塚眼科医院 副院長
現在に至る。



白内障について (その1)

白内障手術の歴史



大塚 慎一

白内障は、眼球の中の水晶体が濁る病気です。水晶体は、虹彩（茶目）の後ろにある直径9mm、厚さ4mmの凸レンズで、焦点を合わせるレンズの役割をしています。水晶体は、^{すいしょうたいのう}水晶体嚢（前嚢・後嚢）と核と皮質から構成されています。（図1）正常な水晶体は透明で光をよく通します。様々な原因で水晶体が混濁すると、視力低下や羞明（まぶしくなる）、近視化（近くが見やすくなる）が生じたり、また暗くなると見えにくくなったり、二重や三重に見えたりもします。

当院は、眼科手術件数（総数）が年間約3,000例ありますが、そのうち、約半数の1,500例が白内障手術です。

今回から何回かにわたり、白内障手術のお話を掲載したいと思います。まずは、白内障手術の歴史から……。

世界で最初の白内障手術は、紀元前にインドで行われたといわれています。^{ついか}墜下法と呼ばれるその方法は、針を用いて水晶体を眼の奥（硝子体）に落下させるという、いささか乱暴な手術法でした。

1745年フランスのジャック・ダビールという外科医が、角膜を切開して水晶体の前嚢を切り裂き、後嚢を残して水晶体の核の部分搔き出すという、今日の白内障手術の原点ともなる手術方法（水晶体嚢外摘出術）を見い出しました。

1960年代になると水晶体をまるごと眼外へ取り出す水晶体全摘出術（水晶体嚢内摘出術）が主流となり、1980年代までの約20年間続けられました。しかし、この方法では、水晶体を包む嚢が全くなくなるので眼内レンズを嚢の中に挿入、固定することが出来なくなり、結局、段々と普及しなくなりました。

このようなことで、水晶体の後嚢を残す方法（水晶体嚢外摘出術）で、眼内レンズを挿入するという手術が1980年代から1990年代半ばまで主流となりました。

水晶体をまるごと取り出していた時代は、手術の切開創の幅は12mm程の大きさでした。しかし、1980年代になっ

図1 眼の構造と水晶体

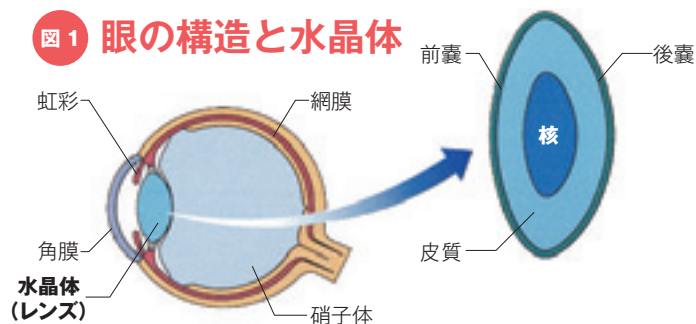
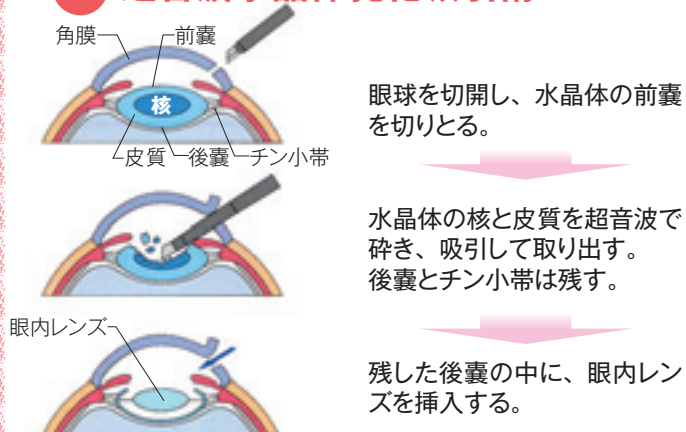


図2 超音波水晶体乳化吸引術



て、小さな切開創から細い管を入れ、超音波をかけて濁った水晶体を振動で破砕して吸引する手術（超音波乳化吸引術）に変わってからは、わずか3mmという切開幅で手術ができるようになりました（小切開白内障手術）。（図2）

切開幅が大きな時代は、術後に大きな乱視が生じ、裸眼視力が不良でしたが、3mmの切開幅になって術後に生じる乱視（^{じゃつき}惹起乱視）は軽減しました。

当院では、今まで角膜2.4mm切開で白内障手術をやってきましたが、今年になって、ボシュロム社のステラリスという最新の白内障手術装置を導入し、角膜2.0mm切開にて手術をしています（極小切開白内障手術）。これによって術後の惹起乱視はほぼ0に近くなり、手術によって生じる乱視は克服されました。

次回は眼内レンズについてお話しします。

学会発表

平成23年6月25日（土）に第159回大分眼科集談会が開催され、当院の視能訓練士、山崎さんが一般講演で発表をしました。

〈本人のコメント〉

大分県内の眼科医が集まる会でしたので大変緊張しましたが良い経験となりました。
この機会ですんだこと感謝したことを励みに今後も努力して取り組み、患者様の為に努めることができるよう精進していきたいと思いをします。

山崎さん

平成23年 当院の学会参加一覧 〈1月～8月〉

H23.1.28～30	日本眼科手術学会(京都)	2名
H23.2.24	大分VEGF研究会(大分)	2名
H23.3.12～13	日本眼科医会 生涯教育講座(福岡)	4名
H23.3.19	おっしょい 眼科手術の会(福岡)	4名
H23.3.26	豊の国 眼科フォーラム(大分)	10名
H23.4.23	九州眼科アカデミー(福岡)	5名

H23.5.12～15	日本眼科学会(東京)	2名
H23.5.27～29	九州眼科学会(沖縄)	2名
H23.6.17～19	日本白内障学会・屈折矯正学会(福岡)	9名
H23.6.25	大分眼科集談会(大分)	10名
H23.8.27	日本眼科医会生涯教育講座(福岡)	8名

各専門医日程

10月	11月	12月
1日(土)	5日(土)	10日(土)
硝子体手術 大阪労災病院 副院長 恵美先生	涙道内視鏡手術 (岡山)すぎもと眼科 院長 杉本先生	硝子体手術 大阪労災病院 副院長 恵美先生
15日(土)	8日(火)	
硝子体手術 名古屋市立大学 教授 小椋先生	眼瞼手術 (横浜)岡田眼科 副院長 宮田先生	
24日(月)～26日(水)	11日(金)	
翼状片手術 日本医科大学 診療教授 志和先生	硝子体手術 (福岡)林眼科病院 吉村先生	
27日(木)	19日(土)	
白内障手術 (東京)井上眼科病院 副院長 徳田先生	眼瞼手術 京都府立医科大学 渡辺先生	
28日(金)	26日(土)	
緑内障専門外来 琉球大学 教授 澤口先生	網膜専門外来 福島県立医科大学 教授 飯田先生	

当院では全国より各分野の専門の先生を招いて診察や手術を行っています。専門医診察・手術は早い時期で予約が埋まってきますので、診察や手術をご希望の方は、スタッフまでご連絡ください。

専門医紹介 2



恵美 先生

大阪労災病院副院長・部長

専門分野

網膜硝子体・白内障

専門医・認定医

医学博士、日本眼科学会専門医、日本眼科手術学会理事、網膜硝子体学会理事

恵美先生には、増殖糖尿病網膜症や網膜剥離など、難易度の高い硝子体手術をお願いしています。豊富な経験を持っておられる日本でも有数の硝子体手術のスペシャリストです。

スタッフ紹介

受付・事務

当院に来院される患者様を一番にお迎えする窓口として受付事務スタッフ6名、チームワークを大切に、明るい笑顔、親切丁寧な対応を心がけ、患者様が安心して診療を受けていただけるように、毎日頑張っています。

医療費のことなどで、ご質問やご相談等ございましたら、お気軽に声をかけ下さい。

また、月に一度の保険証提示に、ご協力お願いします。

笑顔でお待ちしております。



麻生、植木、足達、米田、後藤、衛藤

診療時間の案内

診療時間	月	火	水	木	金	土
午前 9:00 ～ 12:30	大塚 野田	大塚 野田	大塚 野田	大塚 野田 第2木曜日のみ 大塚 中野	大塚 野田	大塚 野田
午後 14:00 ～ 18:00	中野	中野	中野	午後 休診	野田	午後 休診
手術日 (午後)	白内障	白内障	白内障	—	翼状片 眼瞼下垂 内反症	—

※専門医による硝子体手術・緑内障手術・眼瞼手術・涙道手術は随時行っています。

※受付時間は午前7:30～午後5:00までです。

※コンタクトレンズの作製は、予約制となっております。事前に電話にて御予約をお願い致します。

〈年末年始のお知らせ〉

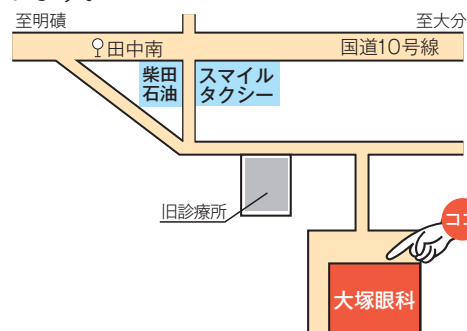
	12/28 (水)	29日 (木)	30日 (金)	31日 (土)	1/1 (日)	2日 (月)	3日 (火)	4日 (水)
午前	診察	休診	休診	休診	休診	休診	休診	診察
午後	診察	休診	休診	休診	休診	休診	休診	診察

※3日は休日当番医です。

ホームページ紹介



大塚眼科のホームページには院長の挨拶をはじめ、診療時間の案内・手術案内や、交通アクセスなどが掲載されています。



広報部編集委員

野田
(副院長)
井上
氏川
野崎
小野
植木
本幡

大分市 大塚眼科

検索

インターネットにて検索してみてください

ケータイはこちら

大塚眼科モバイルサイト

